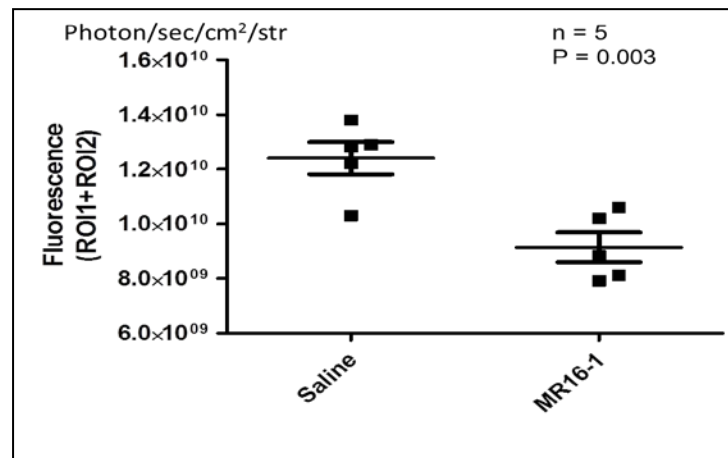
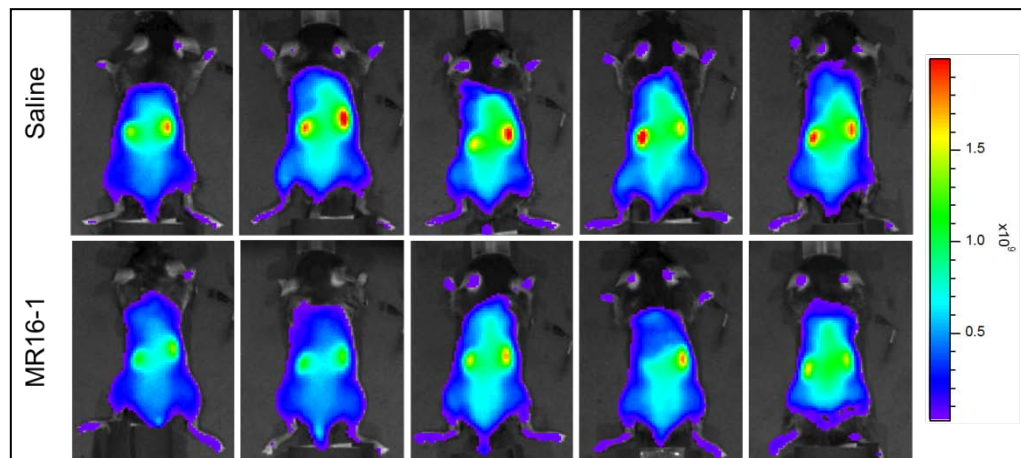


アミロイドーシス特有の病理像を認識するプローブの開発

東北大学病院 臨床研究推進センター 工藤幸司 他4名

目的: トシリズマブ(ヒト化抗IL-6受容体抗体)はヒト アミロイドーシスにおいて治療効果を示す。本年度はアミロイドーシスモデルマウスにおけるラット抗マウスIL-6受容体抗体の効果を実験技術である近赤外蛍光イメージングで検証する。

結果: アミロイドーシスマウスモデルにおけるMR-16-1(ラットIL-6受容体抗体)の治療効果を近赤外蛍光イメージングで検証することができた。



主として脾臓および腎臓にアミロイドが蓄積するモデルマウスに、①アミロイドに結合する、②生体を透過する長波長(近赤外線)の光によって励起されて蛍光を発するTHK-5XYを静脈内投与した。その結果、MR16-1に治療効果が示唆される結果が得られた(左図:実際の蛍光イメージング画像。右図:結果のまとめ、平均±SD)。簡便・廉価・迅速なアミロイドーシス診断を可能とする近赤外蛍光イメージング法の開発に、今後とも貢献したいと考えている。